

三 各地点の副詞語彙についての分析的考察

ヒトヤマ

(一) 香川県小豆郡土庄町肥土山方言の副詞語彙について

(1) 自然傍受であらたに得られた副詞語彙

(注) *印は、質問調査で使うと回答されなかった語詞のうち、自然傍受調査では得られたものであることを示す。

(一) 分量関係の副詞語彙

1. 数量の多・適当・少・不定を表わすもの

(1) 多いことを表わすもの

a. きわめて多いことを表わすもの——イッサイ、カタズメテ、カタマッテ (一度に)、ジョーニ (たくさん)、ズント (全部)、ズンド、ゾロット (全部)、ナンボデモ*、ナンデモ、マルタデ (まるまると)、マルッキリ

b. かなり多いことを表わすもの——ガンドニ (よけい)、ギョーサ、ギョーサンゲニ、ギョーサンニ*、ジュブンニ、ズー (たくさん)、ジョーサン*、スキナダケ、ズゴー (たくさん)、ズボゲ (ずいぶん)、ゾブン、ソートー、タント*、ナント (たくさん)、ホトンド、モノスゴイ、モノスゴー、モノスゴー、ヨーケイ、ヨケ*、ヨケーニ*、

ウ. やや多いことを表わすもの——イロイロト、イロイロニ、ショーショー (少々)、ダンダン (ぼつぼつ)、ナニヤカシ (いろいろ)、ナニヤコヤ (いろいろ)、ナンジャカンジャ*、ナンヤコヤ、ヘチャコチャ (なんやかや)

(2) 適当なことを表わすもの——ソングケ、チョキシ

(3) 少ないことを表わすもの

ア. やや少ないことを表わすもの——ケボソナゲニ (少なげに)

イ. かなり少ないことを表わすもの——スコシヤカ (ちょっとぐらい)、タッタ、チクチク (すこしずつ)、チット*、チットバー*、チビット*、チョーット、チョビリト、ニヘン (二辺)、ヘット (少し)

c. きわめて少ないことを表わすもの——カイモク、ヒョイトモ (少しも)、ホンノ、ポッコ (ひどく)

d. 不定を表わすもの——ドノクライ*、ドンナケー

2. 程度の大・適当・小・不定を表わすもの

(1) 大きいことを表わすもの

a. ひじょうに大きいことを表わすもの——アラカラ*、オンマク (思いきり)、ドエライ (ひどく)、トッテモ*、トテモ、ナカンバイニ (泣きたくなくなるくらいに)、ナント*、ヒチ (ほんとに)、ブチブチ (ひどく)、ポッコ (ひどく)、ユーニユワレンホド、

b. かなり大きいことを表わすもの——エッライ、エロー*、オーキニ、ガイ、ガイニ (ひどく)、ゴッソー (ひどく)、ゴッソーニ、ゴツゲニ、ゴツツゲニ、ズゴー (はなはだ)、ズットズット、トコトン*、ロク (ろくろく)、ロクニ (ろくに)

c. やや大きいことを表わすもの——ヨケー* (よけいに)

(2) 適当なことを表わすもの

a. 全く適当なことを表わすもの——ピッチャク (ぴったり)

b. ほぼ適当なことを表わすもの——アラカタ*、エーカゲンニ*、ヨイヨニ (いいぐらいに)、ヨイヨニ

(3) 小さいことを表わすもの

a. やや小さいことを表わすもの——キヤキヤ（やや痛い），ワーリアイ，ワリアイ*，ワリアテ（割合に），ワリカタ，ワリト*，ワリヤイ*

b. かなり小さいことを表わすもの——カイモク

4. 回数の多少を表わすもの

(1) 回数の多いことを表わすもの——イチイチ（いちいち），イツーン，イツイキ*（たびたび），シギョニ（しきりに），チョコチョサイサイ，ツギツギニ（次々に）ヒョイヒョイ（たびたび），ベッター（たびたび）

(2) 回数の少ないことを表わすもの——イッペンニ，イッペン，タマサカ*（たまに），メッサニ（めったに），メータニ，メッタ*，メッソーニ，メッソニ

5. 比較を表わすもの

(1) ある範囲においてもっとも多いことを表わすもの——イチバン*，イッチャン（いちばん）

(2) ある基準よりやや多いことを表わすもの——アト（もう），ナルベク*，モイッペン*（もう一度），モセツト（もう少し），モヘツト（もう少し），ヨケ*（よけいに）

(二) 時間関係の副詞語彙

1. 時間の長・短・緩・急を表わすもの

(1) 長・緩を表わすもの

a. 長いことを表わすもの——シャースー（しばらく），ナガイアイダ，ヒサシブリニ，ベーター（ずっと）

b. 緩であることを表わすもの——ガツガツ（かろうじて），ポチポチ*

(2) 短急を表わすもの

a. 短いことを表わすもの——スグイ（すぐに），セツノマ（少しの間）チョットキマ（しばらくの間），ヒョコツト（しばらく）

b. 急であることを表わすもの——テキリ（すぐに），ニワカニ，ハヨ*（早く），ヒトイキニ，ヒョツト，

2. 時刻を表わすもの

(1) 時刻を表わすもの——アクルヒ，アサ，アシタノアサ*（明朝），イキシナニ（行きがけに），サキノオトトイ（一昨々日），センキョ（先日），テマエ（先日），バンゲ

(2) 開始・完了を表わすもの

a. 開始を表わすもの——アラデ（はじめは），アラカラ（最初から），ハジメテ*

b. 完了を表わすもの——サイゴニ，トードト（とうとう）

3. 時制に関するもの

(1) 過去の時制を表わすもの——イッタン，インマサッキ*，コナイダラ（この間），コノマエ，サキ一*（先に），チーサイコロ，チカシュー（近ごろ），トーカー（昔から），モーチョツトサキ

(2) 現在の時制を表わすもの——イマアタリ，イマドキ，イマドキヤ，イマンゴロ，ゲンザイ，

(3) 未来の時制を表わすもの——アトアト，イツヤゴロ（いつごろ），イツゾ，イマカラサキ，コンダラ（今度は），サキサキ（先先），マタ，マダマダ，ヤンガテ*

4. 期間を表わすもの

(1) 期間を表わすもの——アカリノアルマニ（明るいまに），イチネンガラ（一年中），イノチノアルカギリ，エイキューニ，サンヨネン，ジューネン，ネンガラネンジュー，ヒナカイチニチ（一日中），ヨーサジュー（一晚中），ヨーサデ（一晚で）

(2) 反復・継続を表わすもの——イチネンガイ（一年へだて），イチンチマダキ（一日おき），イツモカツモ*，ジト（ずっと），ズーツト，ツネニ，ツネニヤ，ツネニワ，ツネヘイゼイ，トキニヤナ（時には），トキニヨツタラ，トキマニヤ，トキヨリ，ネガラネンジュー，マータ（また）

(三) 情態の副詞語彙

1. 人に関する情態の副詞語彙

(1) 意志を表わすもの

- a. 意志を表わすもの——イチカマチカ（一か八か）、イッシュケンメイ、ウッポン（一心に）、コーンカギリスキソローニ（好き勝手に）、スッテモムイテモ（無理やりに）、トカク*、マットーニ、ムトニ（冷たく）、ムリヤリナー
- b. 意識を表わすもの——アンジョ（案の定）、イノチカラガラ、オモサマ（予想外に）、ジューニ、タッテモスワッテモ、ナカヨーニ、ヒトマズ（一応）

(2) 感情を表わすもの

- a. 好ましい感情を表わすもの——アンキニ、ザックバラン、タノシーニ、ヤッレヤッレ、ユーニ（落ち着いて）
- b. 好ましくない感情を表わすもの——イトシナゲニ（かわいそうに）

(3) 強調を表わすもの

- a. 肯定的な方向での強調を表わすもの——オモヤク（思いきり）、ホンマー、ホンマニナー、ホンマン
- b. 否定的な方向での強調を表わすもの——カサネガサネ、ボコーサンゲニ

(4) 評価を表わすもの

- a. 積極的評価を表わすもの——エー（よい）、キッチラ（きっちり）、キッツラ、ケッコー、ジョーズニ、ブジニ、ミゴト、ヨクヨク、リッパニ、
- b. 消極的評価を表わすもの——エラゲニ、キタナシニ（ぼろくそに）、ボロクソ（ぼろくそ）、クソボロニ、ボロクソ、ヤカマシー

(5) 性質を表わすもの——オッチラ（溫和に）、カタゲーナ、ガツガツ、コマコナ（細かな）、シッカリ、シッカリ（落ち着いて）、チョコザイゲナ（生意気な）、ヒョングニ（変わった）

(7) 行為を表わすもの

- a. ——アリアリト（明らかに）、テゴレヨーニ、テブリ（手ぶら）、テンコロヤスーニ、ビョードーニ、ヘイキンニ
- b. ——イコネイコネ（めいめい）、イチガイニ、オタガイニ、ジッサイ、ジュンヨーニ（順序よく）、テンデニバラバラニ、フタリアイニ（二人一組で）、ヨッテタカニ（密ってたかって）、ワガニ、ワガデ（自分で）

2. 自然に関するもの

(2) 変化——オノズト*、シランマニ、ジリジリ、

(3) 様態を表わすもの

- a. 整っているさま——マットーリ（まっすぐ）
- b. 不整なさま——サカシニ（あべこべに）、ヘコサカ（さかさま）、ワヤニ*
- c. 粗・密なさま——イチメンニ、バラバラ、バラバラニ、

(4) 比況に関するもの

a. 強調指示を表わすもの

- a—1. 近称指示——コーンナ（こんな）、コーダケ（これだけ）
- a—2. 中称指示——ソナナ（そんな）、ソナナガイ（そんなに）、ホナイ、
- a—3. 遠称指示——アーセーコーセー、アーンナ、アンナ
- a—4. 不定指示——ダレゾカレゾ、ダレチャ（誰とって）、ダレバシ（誰も）、ダレモカレモ、ドイツモコイツモ、ドーヤコーヤ（どうにかこうにか）、ドノーコーノ（どうなりこうなり）、ドコッチャ（どっこも）、ドコマデ、ドシテデモ、ドッコモ

b. 非強調指示を表わすもの

- b—1. 近称指示——コンナイ、シカシカ

b-3. 遠称指示——アンナニ（あのように）

b-4. 不定指示——ダレゾ、ダレカ、ドーコー*、ドコイデモ、ドコゾト（どこになりと）、ドンタラ*、ドッキヤ、ドッチ、ドッチャ、ナニカヤ、ナンヤラ

(四) 叙述決定の副詞語彙

(1) 客観的事象の否定を表わすもの

a. 全体否定に関するもの——イチモ（ひとつも）、カラケツ（全く）、ジューニモボーニモ（どうにもこうにも）、ズンド（全く）、ソレコソ、チョットモ、ナントモカントモ、ナーンニモ

b. 部分否定に関するもの——アーンマリ、アンマ

2. 疑問を表わすもの

(1) 理由を問い尋ねるもの——ナンシニ*（何故）

(3) 事物を問い尋ねるもの——ナニユ（なに）、ナンタラ（何という）、ナンヤ、ナンヤラ

3. 仮定を表わすもの——イヤシクモ、モシモ*

(2) 譲歩的仮定を表わすもの——オソクトモ

4. 推量を表わすもの——カレコレ

6. 願望を表わすもの——ドーゾコーゾ

7. 肯定を表わすもの

(1) 批評を表わすもの——タシカニ、ヤッパン*

(2) 決意を表わすもの——カクジツニ、セッサイ（絶対）

(五) 擬態の副詞語彙

1. 人に関する擬態の副詞語彙

(1) 動作・状態一般を表わすもの

ア. 歩く姿に関するもの——コソコソ、コソロコソロ、ジゴジゴ、シャッシュャット、ポトポト、

ウ. 走る姿に関するもの——ターット

コ. 座る姿に関するもの——ベタット

ツ. 酒を飲む姿に関するもの——ガブガブ

ト. 見る姿に関するもの——キシヤキシヤキシヤト、キョロ

ナ. 仕事をする姿に関するもの——チャアット、トットトット、パアット*、パット、パアット、フーフ、モチャモチャモチャモチャ

ニ. 緩慢な動作に関するもの——ボヤボヤ

ハ. 汗をかく姿に関するもの——ダグダグ

(2) 状態を表わすもの

ウ. 並ぶ姿に関するもの——ザラリット

オ. 雨に濡れる姿に関するもの——ビショ、ビショー、ビショニ、ビショヌレニ、

キ. 痛みに関するもの——ジーン

ケ. 心の状態に関するもの——イライラ、シブシブ、ションボリト、スッキリ、チリチリ

(3) 容姿・表情を表わすもの

ア. 容姿に関するもの——ガシガシ（髪の毛）、デブブリ、バシバシ（髪の毛）

2. 人以外のものに関する擬態の副詞語彙

(1) 獣、家畜の動作・状態を表わすもの

ア. 歩く姿に関するもの——シューッシューット、ヒョックリヒョックリ

(3) 植物、果物の様子・状態を表わすもの

イ. 花や葉の散る様子に関するもの——パアット

ウ. 植物の育つ様子に関するもの——ヒョロット、ポチポチ

(4) その他のものの様子・状態を表わすもの

- キ. 物の表面の状態に関するもの——シワシワ
- ク. 物のふくらんだ状態に関するもの——ポコット
- ケ. 物の固い状態に関するもの——クリクリ, サゴサゴ
- セ. 物の新古に関するもの——ピンピン
- タ. 物の落ちる様子に関するもの——ドサイ, ドサリ, ドット
- ツ. 物の崩壊する様子に関するもの——ドードードードー, ボカーント
- テ. 物の起きる様子に関するもの——ポーン
- ト. その他——フゴフゴ

(六) 擬声の副詞語彙

1. 人に関する擬声副詞語彙

(1) 口から発する声に関するもの

- ウ. 話し声に関するもの——ゴジャゴジャ, ドンドン, モゴモゴ
- エ. 不平を言う時に発する声に関するもの——オリヤソリヤ, グジャグジャ, グダグダグダグダ*
- オ. 騒いでる時に発する声に関するもの——ドンチャンドンチャン

(2) 口以外の身体の部分から発する音に関するもの

- ア. 歩く時の足音に関するもの——ドンドン, キュッキュット

2. 人以外のものに関する擬声副詞語彙

(1) その他のものたてる音に関するもの

- エ. 物が崩壊する時の音に関するもの——ゴロゴロゴロ, ザーッ, ドドドド
- カ. 刃物などを突き刺す時の音に関するもの——グシャリ

(2) 質問調査と自然傍受調査

肥土山部落の調査は、金子彰が質問調査、町博光が、自然傍受調査を主に行った。期間は、ともに3泊1日である。総調査時間数は、自然傍受調査が23時間20分になる。質問調査もこれとはほぼ同じ時間の約26時間をかけている。(中学女子の調査時間は含まない。)

以下、この基準のもとに実施し、両調査方式で得られた結果について考察を進めていく。なお、自然傍受調査は、老人層に限っているので、中学女子の結果は考慮しない。

質問調査で、使うと回答のあったものと、質問調査の場で誘発して回答した語詞(一覧表で一字下げで印出したもの)の総数は1445例であった。これに対して、自然傍受で得た語例は、副詞を含んでいるカード総数1117例、異なり語数にして635例である。この結果を表に示すと、

	A	B	C	D	E
(→)	202	99	101	200	301
(←)	234	66	51	117	300
(⇒)	402	110	72	182	512
(⇐)	161	20	36	56	181
(⇄)	310	44	20	64	354
(↔)	136	13	3	16	152
計	1445	352	283	635	1797

(表1)

- A: 質問調査で得られた語数
- B: 自然傍受調査で新しく得られた語数
- C: AとBで重なって得られた語数
- D: B + C, すなわち自然傍受調査で得られた総語数
- E: A + B, 各語彙分野別の総語数
- (→): 分量関係の副詞語彙
- (←): 時間関係の副詞語彙
- (⇒): 情態の副詞語彙
- (⇐): 叙述決定の副詞語彙
- (⇄): 擬態の副詞語彙
- (↔): 擬声の副詞語彙

意外だったのは、自然傍受調査で、擬声語が少なく、分量関係が多く得られたということである。自然傍受調査で得られた総語数のうち、分量関係は32.3%を占め、擬声語は2.5%に過ぎない。日常の談話生

活では、数量の多少や、程度の大小に関する話題が多くなりがちなのであろうか。分量関係の副詞語彙と、擬声の副詞語彙のそれぞれの分野において、自然傍受で得られた語数を比較してみると以下ようになる。

1. 分量関係の副詞語彙

	A 老	B 新	C重なり
1 (1)a	9	11	8
(1)b	23	16	15
(1)c	12	8	4
(2)a	2	2	1
(3)a	0	1	0
(3)b	11	7	5
(3)c	2	4	0
(4)	8	1	4
2 (1)a	17	11	12
(1)b	29	14	18
(2)a	0	1	0
(2)b	14	2	10
(3)a	7	3	4
4 (1)	26	7	7
(2)	12	7	5
5 (1)	3	1	2
(2)	20	3	4
合計	202	99	101

(表2)

2. 擬声の副詞語彙

	A 老	B 新	C重なり
1 (1)ウ	11	3	2
1 (1)エ	7	2	1
(1)オ	3	1	0
(2)ア	7	2	0
2 (8)	6	1	0
(10)エ	0	3	0
(10)カ	1	1	0
合計	136	13	3

(表3)

分量関係の副詞語彙が、ほとんどの意味領野に新出の語彙が得られたのに比べ、擬声語は、七領野にしか出ていない。しかも、分量関係では、質問調査で得た語例とほぼ同じ数の 200例を求めているのに対して、擬声語は、わずか16例にすぎない。

さて、分類表(1)のC欄とD欄には、自然傍受調査で新しく得られた語数と、質問調査と自然傍受調査とで得た語数が重なっている場合の例をあげている。これを見ると、新しく得られた語数が、質問調査と重なって得られた語数よりも、多くなっている場合ほど、新しく得られた各語詞は、その場にふさわしい一回的な表現に用いられる傾向にあると言える。

例えば、(二)時間関係の副詞語彙の4(1)のうち、新しく得られたものは、アカリノアルマニ、イチネンガラ、イノチノアルカギリ、エイキューニ、サンヨネン、ジューネン、ネンガラネンジュー、ヒナカイチニチ、ヨーサジュー、ヨーサデの11例である。これに対して、重なって得られた語例は、ヨドーンの1例しかない。今度は、逆に、重なる語が新しく得られた語よりも多い場合を見ると、2(2)bのほぼ適当なことを表わすものの項では、新しく得られたものは、ヨイヨニ(いいぐらい)に、ヨーヨーニの2例であり、重なって得られた例は、アラカタ、エーガイニ、エカゲン、エカゲンデ、エカゲンニ、タイガイ、ベツニ、ホドホドニの10例である。新しく得られた語数と、重なる語数との差がもっとも大きいのは、(四)擬声の副詞語彙である。以下、(五)擬態の副詞語彙、(六)情態の副詞語彙、(七)時間関係の副詞語彙、(八)分量関係の副詞語彙となり、最後に、(九)叙述決定の副詞語彙がくる。この項目の配列は、一回的な表現の多いものから、固定的なものへと並んでいる。

以上、質問調査と、自然傍受調査との比較によって、肥土山方言の副詞語彙の用法差というものを考察した。

(3) 修飾発想上の特色

分量関係の副詞語彙として認められるものは、総数 302例である。このうち、分類項目「1. 数量の多・適当・少・不定を表わすもの」と、「2. 程度の大・適当・小・不定を表わすもの」とに属するものが、全体の約73%にも当たる 221例である。しかも、「1. (1)多いことを表わすもの」79例、「2. (1)大きいことを表わすもの」74例で、両者で全体の約51%にも当たる。逆に、少ないことを表わす意味領野は、「1. (3)少ないことを表わすもの」25例、「2. (3)小さいことを表わすもの」12例の、合計37例で、全体

の約13%にあたる。数量や程度の大きなものは、小さなものの約4倍で、大きなものへの関心がいちじるしく強くなっているという事実が注目される。

以下、分量関係のうち、特に基本的な意味領野と見なしうる、「1. (1)数量の多いこと」と、「2. (1)程度の大きいことを表わすもの」について、その修飾発想上の特色を考察していく。

一覧表で、肥土山方言に「エツ」系の副詞のないことが観察される。(一覧表番号52~62参照)それでは、「エツ」系のかわりにどのようなものが使われているだろうか。

土地人の説明によると、程度のはなはだしいことには、「ゴツ」がしばしば普通に使われるという。これは一覧表からもわかる。(一覧表番号85, 86参照)

○ ゴツ アル ナー。(たくさんあるなあ。)

○ ゴツニ カネガ イルンジャロ。(たくさんお金が要るだろう。)

これらは、いずれも「数量の多いこと」に関するものである。これに対して

○ ゴツ ヨロコンデ ナ。(ひどく喜んでね。)

○ ソノ ヒトガ ナー。ゴツ クロー シマシタ。(その人がねえ。ひどく苦労しました。)

○ デンキガ ツイテ タバコノ ヒオ ツケニ イッテ ゴツ ワロタ ゾナー。(電気がついたので、煙草の火をつけに行ったら、ひどく笑われたんですよ。) <アクセント欠>

などのような例もある。「ゴツ」は、程度のはなはだしい時にのみ使われているようである。

「数量の多いこと」を表わすのに用いられるのには、ほかに「ジョーニ」と「スゴ」がある。

○ ジョーニ ツカーサッテ アリガトー。(たくさん下さってありがとう。)

○ ゴチソー モッテ クルンヤッタラ ジョーニ モッテ コイ ヨ。(ごちそうを持ってくるんだったら、たくさん持ってこいよ。)

○ スゴ アル ナー。(たくさんあるぞ。)

などのように使われている。

次には、「程度のはなはだしいことを表わすもの」について、具体例を示そう。まず自然傍受調査のみで得られた「アンジョ」系は、

○ アンジョ ソノ シャッキンニ コマリマシタ。(ひどくその借金に困りました。) <「ソノ」以下アクセント欠>

○ アンジョ トシー トリマシテ ナー。(ひどく年を取りましてね。)

○ ドコニ オルンカ アンジョ シリマセン。(どこにいるのか、よくは知りません。) <アクセント欠>

○ アンジョニ ワヤジャ ガ。(全くだめだが。)

上記4例は、いずれも、老女が筆者(青男)に対して用いたものである。土地人は、これらを「ていねい」だと教示してくれた。語の由来を尋ねたら、「アンノジョ」から来たものだろう、とのことだった。

「ガイニ」系も、一覧表(番号324)によると、小豆島と因島に特徴的な語であるらしい。

○ カゼガ ガイデ ナー。アイマセン ノ。(風が強くてね。密柑を植えても引き合いませんの。)

○ ソッリャー。ガイニ クチガ アイテ ナー。(地すべりで、山の斜面にそれはひどく口が開いてな。)

○ アソコノ コワ ガイニ ゴンタクレジャ ナー。(あそこの子は、ほんとに気かん坊だね。) <アクセント欠>

○ ガイニ セビッテ ナー。(ひどくせびってね。)

などのように使われる。「アンジョ」系が、おもに女性に使われるていねいな語であるのに比して、「ガイニ」系は、全年層にはば広く用いられている。

「エロー」と「エライ」には、使い分けがあるのだろうか。

○ ハッサクワ エロー ニー ナー。(初作の密柑は、とっても良いね。)

○ マイ^トシ エ^ロー カワ^ッタ ヤ^ツワ アリマ^セン ナ^ー。(毎年ひどく変わったのではありませんねえ。)

○ エ^ライ カ^ワイガ^ッテ オ^クレ^テ ナ^ー。(とてもかわいがってくれてね。)

○ エ^ライ オ^コラ^レテ……。 (とても怒られて……。)

これらの例で見ると、^ラ「エライ」は、自己の直接の経験の修飾であるのに比べ、^ロ「エロー」は、他物への関心の修飾である。

一覧表には、「ボッコ」系は、小豆島では回答されていない。(表番号112・113・303参照)

○ ^ボッコ ショ^ーノ ワ^ルイ ヤ^ツジャ。(ひどく性の悪いやつだ。)

○ イ^ロガ ^ボッコ デ^ル ^ンゾ^ナ。(色がひどくでるんですよ。)

○ ヒ^トヤマ^ノ ホ^ーガ ^ボッコ ス^クナイ。(肥土山の方がずっと少ない。) <アクセント欠>

自然傍受調査では、以上のように使われている。このほか、3例と、あわせて6例が得られた。「ボッコ」が、「数量の多いことを表わすもの」に使われている例は、採録し得ていない。

以上、「数量の多いことを表わすもの」と「程度の大きいことを表わすもの」の中で、特徴的だと思われるものについて、具体的な用例を示した。

最後に、「ほぼ適当なことを表わすもの」のうち、「エカゲン」系の文例を示しておこう。(一覧表421~431参照)

○ モ^ー エ^ーカ^ゲン タ^クモン^ガ ナ^イ。(もういいかげん炊きつけるものがない。)<アクセント欠>

○ モ^ー エ^ーカ^ゲン^デ エ^ージャ^ー ナ^イ カ。(もういいかげんでいいじゃないか。)

○ エ^ーカ^ゲン^ニ ナ^ゴー ナ^リマ^ヒタ^ラ……。 (いいかげんに長くなりましたら……。)

○ ナ^ニゴ^トモ エ^ーガ^イニ デ^キタ^ラ ナ^ー。(何ごともいい具合にできたらねえ……。)

(4) 副詞形成上の特色

副詞形成上の特色として、3つの場合を考察する。

(i) 「～ゲニ」の下接による副詞形成

肥土山部落に入って、調査を始めるとすぐに、土地人から、「この言葉は、『～ゲニ』をつける。」という教示があった。土地人もこの語形成上の特色をよく認めているようである。まず「ゴツ」に「～ゲニ」が下接した「ゴツゲニ」の例を示そう。

○ ^{ダイ}コ^ーガ ^ゴツ^ゲニ ハ^エトル。(大根がみごとに生えとる。)

○ ^ゴツ^ゲニ アル ^{モン}ジャ^ー ナ^ー。(たくさんあるもんだねえ。)

などのように使われる。「ゲニ」が、もともと、「～のように」の意味を有しているから、これと複合してできた語は、土地人の婉曲的な表現意識を満たしてくれるものとなっている。

○ ^ゴー^ゲニ ア^ラタ^マッ^テ ^ゴチ^ソー^モ ^ヨー^{セン} ワ^チー。(ひどく改まってごちそうも作れんわね。)

このほかに、イトシナゲニ(かわいそうに)、エラゲニ、カタゲニ、ケボソナゲニ(少なさそうに)、チョコザイゲニ(なまいきそうに)などを聴録している。

(ii) 「～チ、チャ、チャン」の下接による副詞形成

「～チ」が下接する例は、もともと「イチ(一)」の促音挿生形と考えられるが、ここでは、語形上の特徴により、「～チ」の下接したものとする。

○ ^ワシ^ガ ^イッ^チ ^{ゲン}キヤ^{カラ}。(私がいちばん元気だから。)

○ ^ニギリ^ジャ^ト ^ユー^ワ ^イッ^チ ^アニ^{サン} ^イマ^デモ ^ナオ^ツト^{ラン} ^ゾナ。(けちだと言うのは、まったく兄さん、今でも直ってないんですよ。)<アクセント欠>

○ ^イッ^チ ^スエ^ッコ^ニ ^カカ^ツリ^{マス}。(いちばん末っ子に面倒をみてもらっています。)

「イッチャン」の文例は、1例しか聴録し得ていない。

○ カッテニ ツイデ タベルノガ イッチャン エーン ゾナ。(かつてに、ご飯をよそって食べるのがいちばんいいですよ。) <アクセント欠>

次に、「～チャ」の例を見ていこう。この例は多い。「分量関係の副詞語彙」一覧表の 293 番に、「ナンチャ」があがっている。これによると、小豆島の老・少年層と、大島の老年層で回答が得られている。肥土山では、

- ナン^チャ ノマン。(何も飲まん)
- ナン^チャ シャベリマセン ナー。(何も喋りませんね。)
- ナン^チャ クソ。(何だくそ!) 思うようにならない時に言う。
- ウチニ^ヤ ナン^チャ カマワンデス。(家では、何も不都合ではないですよ。)

のように、さかんに使われている。

「チャ」は、ほかの不定指示詞にも広く付き、強調指示表現を支えている。

- ドコッ^チャ ワルク^チイデス ワ。(どこと言って悪くないんですよ。)
- ドコッ^チャ デタ コトモ ナイ。(どこにも出たこともない。)
- ドッ^チャ イワ^レンカラ……。 (どっちとも言えないから……)
- ダレ^チャ ホレテガ ナイケー クサデモ ホレテ。(地下足袋に草がくっついたので見て、誰もほれてくれないから、草でもほれて。)

以上、「チ、チャ、チャン」のそれぞれの用法を検討してきた。これらが付いたものは、例外なく強調表現に関わっている。肥土山方言の強調表現は、この形式で支えられていると言ってもよい。

(iii) 「イ」音化による副詞形成

「イ」音化と言うのは、次のような例を指して言う。

- ニ^カイカラ ド^{サイ}イクエテ オチ^ルンガ アル ^カイ。(二階からどすんと落ちる者があるかい。)
- フーガ ワリーナー ドコイデモ……。 (運が悪いのはどこにでも……) <アクセント欠>
- アン^チ ウエノ ^ハタケデモ ス^グイ デキマス。(あんなに上の畑でもすぐにできます。)

最初の例文は、「ドサリ」>「ドサイ」と /r/ 音が脱落したものと考えられるものであり、あとの 2 例は /n/ 音脱落と考えられるものである。

「イ」音化と、ことさらに言うのは、次のような例があるからである。

- クロイワ イク^{ホー}ガ ^ラクイ コトワ ^ラクイデス ナ。(黒岩部落へ行くほうが楽なことは楽ですね。)

いずれにしろ、新しい語形はそれなりの意味機能を有するようになり、土地の人々の談話生活をなにはどうか個性的にしてもいるのである。

(5) 老・少二層の比較

老少二層から質問調査で得られた回答を表にしてみると以下のようなになる。

	老	少
(一)	202	138
(二)	234	132
(三)	402	223
(四)	161	99
(五)	310	220
(六)	136	75
計	1445	887

表(4)

老年層で使わないと回答したもので、少年層が使うと答えたのは、以下の通りである。

- (一) アマリ
- (二) アシタアサ、イストキ、キョーパン、イマ、チコー、トックノムカシニ、ハジメカラ
- (三) ドーシテモコーシテモ、ポカーント、オトナシニ、スッキリ、ストット、ジート、ヤワラカニ、
- (四) シャンシャン、ズンズン、テクテク、ストント、パーンパーン、ポーイ、ペロリト、サキサキ、オロオロ、ホロリト、ソワソワ、キチャキチャ、ピタット
- (六) ツベツベ、コットンコットン、ブツリ

これらの31例が、少年層だけが使うと答えたものである。いずれも、比較的共通語に近い形であることが注目される。

表(4)から、老年層と少年層の語彙量は、約5:3という結果が出ている。この比率は、(一)から(内)までの各語彙分野でもそう大きくは変わっていない。

ところで、各語彙分野ごとに、さらに下位の意味領野を検討していくと、老・少の差が目立つものには次のような項目がある。(表5参照のこと)

	老	少
(一)1(1)a	9	5
b	23	13
c	12	5
(二)1(1)a	8	3
b	24	9
(2)a	17	10
b	19	11

表(5)

語彙が栄えていて、いろいろな使い分けが必要とされる項目に差が目立つのである。

以上、肥土山方言の副詞語彙について、五項目にわたり考察を加えた。
(町 博光)

(二) 岡山県笠岡市神島瀬戸・東村方言の副詞語彙について

目 次

- はじめに
- 一、「分量関係」の副詞語彙の記述
- 二、「分量関係」の副詞語彙における老少二層の比較
- 三、神島の副詞語彙についての数量的考察
- 四、神島の副詞語彙における特有語彙の実態
- おわりに

○はじめに

調査対象地は、岡山県笠岡市神島瀬戸・東村である。瀬戸は人口154人、戸数73戸、東村は人口230人、戸数64戸で、瀬戸と東村とは隣接している。神島の玄関口にあたる小字集落である。農業を主体とするが、笠岡市や福山市への通勤者も少なくない。

調査期間は、1975年10月25日から5日間である。期間中、質問簿中心の質問調査だけを行なった。教者は、池田幸枝氏(61才)である。老年層の被調査者は、以下のとおりである。大本己栄子氏(58才)〈後半の一部分を、中塚美代子氏(55才)が手伝った。〉平川一士氏(64才)〈前半の一部分を、仁井金太氏(77才)が手伝った。〉少年層の被調査者は、池田和美氏(14才)である。

一、「分量関係」の副詞語彙の記述

当地で、「質問簿」によって調査された老年層の副詞語彙の資料にもとづいて、記述をこころみる。

1. 数量の多・適当・少・不定を表わすもの——82語(以下、これを「意味領野1」とする。)

(1) 多いことを表わすもの——53語

a きわめて多いことを表わすもの——15

1 アッタケ(ありったけ)

2 アルダケ(//)

○ アルダケ モッテ イケ。(ありったけ持っていけ。)

3 キレーニ(すっかり)